

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団	
施 設 名	霧島国際音楽ホール（みやまコンセール）	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	6, 014	(千円)
	0	(千円)
	4, 336	(千円)
	1, 678	(千円)

1. 事業概要

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目, 主な出演者, スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	みやま音楽アカデミーⅠ 「みやま音楽塾」	1 6月30日(金)～ 7月2日(日) 5回 2 8月20日(日)～ 2月18日(日) 16回及び修了演奏会	1 みやま出張音楽塾【短期講習型】 2 みやま音楽塾【6カ月集中講座】 監修・特別講師:海老原光(指揮者) 講師:みやまコンセール事業課職員, みやまコンセール協力演奏家 企画:中山拓郎 運営:桑木野あゆみ 舞台技術:村場盛義	目標値	1,000 (延べ 数)
		1 受講団体のある学校 2 霧島国際音楽ホール		実績値	949
2	みやま音楽アカデミーⅡ 「東京混声合唱団」	1 6月24日(土) 14:00～16:00 1回 2 6月25日(日) 14:00～16:00 1回	1 東京混声合唱団による合唱講習会 講師:相澤直人(指揮), 鈴木慎崇(ピアノ), ほか4名 モデル合唱団:鹿児島高等学校音楽部 2 東京混声合唱団 出演者:相澤直人(指揮), 鈴木慎崇(ピアノ), 合唱団24名, 鹿児島高等学校音楽部 曲目:武満徹:混声合唱のための「うた」, 三好晃編:唱歌の四季 ほか	目標値	850
		霧島国際音楽ホール 主ホール		実績値	387
3	みやま音楽アカデミーⅡ フルートアンサンブル 「マグナムトリオ・リタ ーンズ」	1 1月20日(土)14:00～ 16:00 1回 2 1月21日(日)14:00～ 16:00 1回	1 マグナムトリオによるフルート講習会 講師:多久潤一郎, 神田勇哉, 梶原一紘 2 フルートアンサンブル「マグナムトリオ・リ ターンズ」 出演:多久潤一郎, 神田勇哉, 梶原一紘 曲目:春の声, クロック・アラーム ほか	目標値	580
		1 霧島国際音楽ホール・主 ホール, 小ホール等 2 霧島国際音楽ホール 主ホール		実績値	303

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目, 主な出演者, スタッフ等)	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミニ・コンサート	4月20日(木)～ 12月16日(土) 全29回	出演:みやまコンセール協力演奏家 企画・調整:桑木野あゆみ 舞台技術:村場盛義	目標値	5,500
		霧島国際音楽ホール 主ホール		実績値	1,889
2	みやまさてらいとコンサート	8月26日(土) 17:30～19:30 講習会1回	出演:みやまコンセール協力演奏家 企画・調整:桑木野あゆみ 講習会 コンサート	目標値	500
		8月27日(日) 14:00～15:00 コンサート1回			
		アマホーム PLAZA (奄美市市民交流センター)		実績値	385※
		12月2日(土) 15:00～16:30 講習会1回 12月3日(日) 14:00～15:00 コンサート1回			
きゅら島交流館ホール (瀬戸内町)					

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定どおりに事業が進められていたか。</p>
<p>当ホールは、県民の音楽文化の振興と音楽を通じた国内外の人流促進を図ることを主目的として設置された音楽専門ホールである。公演事業では、アンケート調査の回答や過去の自主事業の公演ジャンルと比較しながら前々年度から事業計画を組み立て始め、質の高い音楽を提供するため前年度中にアーティストの選定をアーティストまたはプロモーターと調整している。</p> <p>人材養成事業では、「みやま音楽塾」を計画し実施することで県民の生涯学習を支援するとともに、演奏技術のスキルアップや次代を担う若手の演奏家の育成を目指している。今回9回目の実施であり、リピーターも年々増え、カリキュラムも定着している事業である。中学生から社会人まで幅広い年代の参加があり、講座では学校の授業や部活動では学べない内容を、様々な工夫を凝らし予定どおり実施することができた。また、「東京混声合唱団」で実施した相澤直人による合唱講習会では、モデル合唱団として鹿児島高等学校音楽部を招聘することで、受講生も過度に緊張することなく、スムーズに実施できた。さらに、「マグナムトリオ」によるフルート講習会では、受講生を習熟度等により3コースに分け、どの受講生にも満足いくような内容で実施した。</p> <p>普及啓発事業では、当ホールが開館当初より大切にしている事業である「ミニ・コンサート」において、開催日1カ月前の1日までに申込みを受け付け、打診を受けた協力演奏家3名が選曲しプログラムを構成している。霧島連山に近く青少年研修施設が徒歩圏内にあるという立地の特性から、その多くが宿泊学習や、遠足の一環での申込みが多い。しかしいまだコロナ感染症の影響も残っており、令和5年度も申込みは減少傾向にあった。遠隔地へ出張して実施する「みやまさてらいとコンサート」については、1年前から概ね計画どおりに事業を進めることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>【文化的意義】</p> <p>当ホールには令和5年度現在、みやまコンセール協力演奏家が85名登録している。これら地元演奏家の協力を得ることで様々な企画を実施することが可能となり、本県の音楽文化・芸術の水準向上に寄与しているほか、「ミニ・コンサート」の実施により、演奏家にとっても演奏の場を増やす一助となっている。また、人材養成事業「みやま音楽塾」では、当ホール職員による講座に加え協力演奏家による実技レッスン、アンサンブル指導などを展開することで音楽文化の伝承と創造のための教育研修機能を果たしている。さらに、普及啓発事業「ミニ・コンサート」は、協力演奏家が、普段耳にすることの少ないチェンバロやフォルテピアノなどの古楽器の演奏を披露し、音響等の設備まで案内するというプログラムで、県民の興味・関心を惹き付けるきっかけであり続けている催物となっている。</p> <p>【社会的意義、経済的意義】</p> <p>普及啓発事業「ミニ・コンサート」では、近隣の研修施設と連携して宿泊学習時の研修プログラムのひとつとして活用され、県内学校の修学旅行や各種研修旅行などでも活用されている。料金設定を高校生以下300円、一般500円とすることで、高く感じられがちなコンサートを気軽に楽しむことができる。小・中・高校生の利用がのべ1,889人、また、普段コンサートに来る機会の少ない未就学児や特別支援学校、福祉就労施設団体などがのべ238人と、年齢と人数以外に制限を設けず、まんべんなく受け入れるという点で社会的意義は大きいと言える。同様に、普及啓発事業「みやまさてらいとコンサート」では、生の音楽を聴く機会の少ない離島での無料コンサートを開催しており、社会的、経済的格差を越えて音楽を届けるという点で意義が認められる。</p> <p>上記のことに継続して取り組んでいることから、助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

2 人材養成事業

目標① 小学生～20代の参加者数を増加させ、県内の若手演奏者を育成する。

指標 年代別参加者率（小学生～20代）45%以上

実績 みやま音楽塾（77.7%）、東京混声合唱団（60.5%）、マグナムトリオ・リターンズ（51.7%）

平均実績 63.3%（達成）

目標② 鹿児島市及び霧島市以外の来場者率を増加させ、地方の音楽技能を高める。

指標 鹿児島市及び霧島市以外からの参加者率35%以上

実績 みやま音楽塾（27.7%）、東京混声合唱団（42.8%）、マグナムトリオ・リターンズ（43.6%）

平均実績 38.0%（達成）

目標③ 講習内容の満足度を向上させ、受講者の音楽に対する意欲を高める。

指標 講習の満足度90%以上、講習による技能向上の実感90%以上、講習による意欲向上90%以上

実績 みやま音楽塾 100%（達成）

目標④ 受講者に公演への興味を高め、芸術を鑑賞する態度を育成する。

指標 公演内容の満足度93%以上 公演料金の満足度91%以上、今後の期待度96%以上

実績 東京混声合唱団（85.1%、84.0%、94.2%）未達成

マグナムトリオ・リターンズ（91.7%、89.2%、94.9%）未達成

目標①、②については、次世代を担う子供たちの参加率を平均的に向上させ、音楽に対する興味、関心を高め、文化芸術に親しみきっかけをつくることができました。演奏技術の基礎や音楽の基礎理論、舞台運営など、普段学校や部活動では学べない内容で、受講生の演奏力向上や音楽への理解を深めることにつながっており、アンケートからも「学校の部活で生かしていきたい。」「来年度もさらに深めたい。」などの声も多く、受講生の41.6%が2回目以上のリピーターであった。「次のステップへつなげたい。」「とにかく楽しかった。」など、感動の声が数多く届けられた。その他、「東京混声合唱団」や「マグナムトリオ・リターンズ」についても、来場者や受講生から好評を博し、目標を達成することができた。

一方、目標④については、設定した指標が高かったこともあるが、アンケートのコメント等から、内容については満足していた来場者が多かったと考えている。

3 普及啓発事業

目標① 小学生～中学生の来場者数を安定させ、観光客誘致を図る。

指標 年代別入場者率（小学生）35%以上、（中学生）30%以上

実績 入場者数（1889人、全29回）：小学校15.6%、中学校28.7%（未達成）

目標② 優れた響きと素晴らしい演奏を県内の児童生徒に体験させる。

指標 生の演奏に触れる機会が初めて 35%以上

実績 ホールに初来館 69.0%（達成）

目標③ 公演内容の満足度を向上させ、協力演奏家の意欲を高める。

指標 公演内容の満足度94%以上

実績 コンサートの満足度（大変満足、まあまあ満足）96.9%（達成）

目標④ 音楽に対する今後の期待度を高め、当ホールのファンを増やす。

指標 今後の期待度75%以上

実績 今後の演奏会の鑑賞79.0%（達成）、今後の当ホールの利用22.5%（未達成）

「ミニ・コンサート」においては、各鑑賞団体の年齢や人数、要望、季節等に応じたプログラムやレクチャー内容の工夫に努め、当ホールの特性を生かした親しみのもてるコンサートを実施したが、小中学校の遠足に付随していたコンサートの申込みが年々減少している。目標①は未達成であるが、小中学生の割合は全体の44%と入場者率は安定している。コロナ感染症の余波で入場者数が完全に回復していないという側面と、学校行事の増減にも左右されることから、来場者数を安定させることは困難である。目標③によると、96.9%の来場者から「満足」との回答を得られたと同時に、「楽器やホールの説明がおもしろく勉強になった。」「感動しすぎて涙が出た。また聴きに行きたい。」等、音楽への興味や生の音楽体験のよさ、当ホールの音響のよさや解説を交えたプログラムに対する肯定的な意見が数多く挙げられた。

また、「みやまさてらいとコンサート」は、各種感染症が流行している時期と重なり、入場者数を制限したこともあり、目標値には達しなかったが、いずれの会場においても来場者の反応がよかった。加えて、コンサート前日に無料の楽器クリニックを実施するなど、生の音楽に触れる機会の少ない離島において、音楽の素晴らしさを伝えるよい機会となった。目標④については、当ホールを利用する際の公共交通機関が少ないなど、当ホールのみで解決できない課題も多いため、地域で連携しつつ、今後も引き続き本ホールの魅力を発信しなければならないと考える。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画どおりに進んだか。

2 人材養成事業「みやま音楽アカデミー」

(1) みやま音楽アカデミーⅠ「みやま音楽塾」

前年度のうちにカリキュラムを作成し、4月にはチラシを作成、各学校へ配布している。講習期間を半年とすることで受講生はじっくりと課題に向き合い、取り組むことができた。令和5年度は36人の受講生を迎え、8月20日の開講式から2月18日の修了演奏会まで、当初の計画どおりに進めることができた。

(2) みやま音楽アカデミーⅡ「東京混声合唱団」

モデル合唱団として鹿児島高等学校音楽部を招聘し、公演前日に相澤直人による講習会を開催した。県内及び近隣の合唱関係団体等と連携し、広報活動に努めることができたが、九州の合唱関係のイベントと日程の重なりもあり、入場者数に響いたことも考えられる。しかし、講習会には一般参加者53名、鹿児島高等学校音楽部51名が参加し、当初の計画どおりに進めることができた。

(3) みやま音楽アカデミーⅡ フルートアンサンブル「マグナムトリオ・リターンズ」

令和4年度に引き続き、公演前日に講習会を計画し、開催した。多久潤一郎による特殊奏法を含めた基礎講座と、神田勇哉、梶原一紘による音楽で進学を目指す学生及び一般演奏者を対象とした上級講座を実施し、いずれの講座も好評を博し、当初の計画どおりに進めることができた。

3 普及啓発事業「ミニ・コンサート」、「みやまさてらいとコンサート」

ミニ・コンサートは希望月の前月1日までに申し込み、みやまコンセール協力演奏家の出演者を調整し、決定するという流れを滞りなく行うことができた。また、近隣の宿泊施設と連携して、プログラムの一環として組み込み、当初の計画どおり実施することができた。みやまさてらいとコンサートは年度前に開催地の希望を取りまとめ、調整し、計画どおりに実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画どおりに進んだか。

2 人材養成事業「みやま音楽アカデミー」

【計画】4,883千円【実績】2,791千円

事業費は適切であったが、音楽塾の受講生が、50名予定のところ実際は36名に留まった。コロナ感染症の余波だと考えられる。その他の講習会の参加者も定員に満たなかったこともあり、当初の計画どおりには進まなかった。

3 普及啓発事業「ミニ・コンサート」、「みやまさてらいとコンサート」

【計画】1,678千円【実績】553千円

事業費は適切であったが、「ミニ・コンサート」ではコロナ感染症の余波で近隣宿泊施設からのプログラムの申し込みが減少したほか、公演の見送りやキャンセル等もあり、公演数が年々減少している。無料公演の「みやまさてらいとコンサート」についても、令和5年度は離島2か所（奄美市、瀬戸内町）だったため、出演者分の旅費が増となったこともあり、当初の計画どおりには進まなかった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

2 人材養成事業「みやま音楽アカデミー」

(1) みやま音楽アカデミーⅠ「みやま音楽塾」

令和5年度で9年目となった本事業は、当ホールの舞台監督及び芸術文化専門員（音楽科教諭経験者）による楽典や音楽史、ソルフェージュなどの講義に加え、協力演奏家による実技レッスン、合奏・アンサンブル指導、音響や照明などの舞台業務体験、演奏会の企画・運営体験などの講座を通して、音楽を幅広く多岐に渡って学ぶ企画として好評を得ている。これらは複数の練習室を持っていること、音楽科教諭経験者が常勤していること、85名という多くの協力演奏家が所属していること、舞台技術者が常駐していることなど、当ホールの特性があるからこそ実現可能な事業であり、資源をうまく活用している事業である。また、受講者も中・高生から社会人まで幅広い年代で構成され、異年齢での受講生が相互に交流を深めながら音楽の楽しさを存分に味わうことができる事業を展開できている。

その結果、演奏技術の基礎や音楽の基礎理論、舞台運営など、普段学校や部活動では学べない内容を学ぶことにより、受講生同士が切磋琢磨し、演奏力向上や音楽への理解を深め合うことにつながった。今回は4年ぶりの合宿も実施することができ、受講生同士、音楽以外の面でもレクリエーションや寝食を共にすることにより、絆を深め合うことができた。修了演奏会にも多くの県民が来場し、本事業の価値や学びを継続することの大切さを指摘する声が多く挙げられた。修了式後には、半年の講座を振り返り、次年度再会を誓い合う姿も多く見られ、本事業の素晴らしさを再認識することができた。さらに、受講生が県内外で活躍するアーティストとして成長している姿を見ることもできる。

(2) みやま音楽アカデミーⅡ「東京混声合唱団」

公演前日に行われた相澤直人による合唱講習会では、東京混声合唱団の団員が各パートに加わり、間近で素晴らしい歌声を感じることができた。相澤の指揮で歌うことにより、受講者の音楽表現に対する意欲が高まり、実際に受講した高校生からは感動やプロとして歌うことへの強い憧れの声が聞かれた。音楽を目指す学生や協力演奏家、音楽指導者等の参加も得られ、未来の鹿児島県の文化芸術を担う人材育成に寄与する事業となった。

(3) みやま音楽アカデミーⅡ「マグナムトリオ・リターンズ」

公演前日に行われたメンバーによる講習会は、昨年度に引き続き2回目であり、続けて受講する方もいるほど好評で、多久潤一郎の基礎講座では、多久の超絶技巧の演奏を間近で聴くことができ、受講生からの感嘆の声であふれていた。多久による講習会の自作資料も大好評で、ぜひ来年も呼んでほしいと熱望する声が聞かれた。神田勇哉、梶原一紘による上級講座では、受講生が各自選曲した楽曲について各講師に直接個別レッスンを受けるといったスタイルであった。受講した高校生からは、憧れのプロのプレイヤーから直接指導してもらえるという貴重な機会に感謝するとともに、次のステップを目指す人材を育成する事業となった。

3 普及啓発事業「ミニ・コンサート」、「みやまさてらいとコンサート」

当ホールの「ミニ・コンサート」は、県民の音楽文化の振興・普及を推進するために、若年層に対する質の高い音楽を気軽な価格で提供できる極めて重要な事業と捉えている。舞台監督及び芸術文化専門員が司会を務め、チェンバロ、フォルテピアノを始め、協力演奏家によって演奏するスタイルは、実施団体への事後アンケートでも事業に対する高い評価を得るとともに、クラシック音楽のよさを指摘する声や今後の音楽鑑賞への意欲の高まりが感じられる声が多く挙げられている。また、「みやまさてらいとコンサート」についても、当ホールを利用したくてもなかなか利用できない遠隔地の県民のために無料で提供できる、極めて重要な事業と捉えている。

以上のように、県民の音楽文化への関心やニーズを踏まえ、地域の文化拠点として世界に誇る音楽専門ホールにふさわしい質の高い人材養成や文化芸術普及のための事業を充実させることができた。県全体の音楽教育、音楽活動・研修等への支援はもとより音楽文化の更なる振興を図ることができたと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

2 人材養成事業「みやま音楽アカデミー」

(1) みやま音楽アカデミーⅠ「みやま音楽塾」

【受講生アンケートより（総回答数 27）】

今年は合宿もあっていろいろな人と仲よくなることができ、いろいろな面で成長できた半年間でした。音楽を楽しむことができる環境があること、そこにいられること、支えてくれる人がいることを忘れずに感謝の気持ちを持ち続けていきたいです。学校の合奏とはちがう雰囲気での合奏で毎回毎回学ぶことが多くて、とても充実していました。学生のころ、あまり積極的に勉強してこなかったことをずっと悔やんでいましたが、このような機会があることを知り、思い切って申し込んでみました。かけがえのない経験を本当にありがとうございました。終わってみるとこの半年間がとても短く感じて少し寂しいです。これからこの半年で学んだことを学校やほかの場所で活かしていきたいです。

【アンケート分析】約 60%がリピーターであり、継続して事業を展開することは地域の文化芸術の発展につながっている。また、協力演奏家がレッスンすることにより、刺激を受けるだけでなく憧れや目指す指標にもなっている。今年度は中学 1 年生から 65 歳と幅広い年齢層からの参加があり、生涯学習の一助、また音楽大学等への進学への一助となっていると考える。

(2) みやま音楽アカデミーⅡ「東京混声合唱団」

【公演アンケートより（総回答数 175）】

鹿高音楽部と一緒にの合唱が、特に茶摘みが素晴らしかったです。鹿高の子たちとのコラボもすごくはまっていて良かったです。心の中で感動の涙が何度も流れました。高校生の合唱に元気をもらいました。発声の量、質、豊かな表現力、ハーモニー、たくさん学ばせていただきました。プロの表現を学ばせていただきました。合唱の目指すべき響きを再確認できました。

【アンケート分析】講習会参加の受講生は全て公演を観覧しており、参加できなかった観客からも次回はぜひ一緒に参加させてほしいとの声が聞かれた。東京混声合唱団の往年のファンの 60 代 70 代の来場が多く、全体の 65%を占めた。新規の観客が 21.7%であり、新たな顧客獲得につながるとともに、素晴らしい合唱に包まれ、響きのよさを体感してもらうことができた。全体の 84%から「手頃な値段」、「安い」との回答があり、高い満足度がうかがえた。

(3) みやま音楽アカデミーⅡ「マグナムトリオ・リターンズ」

【公演アンケートより（総回答数 158）】

最高だった！おもしろかった！ここでしか見られないものをたくさん体感させていただきました。一つの楽器に特化した演奏会が多くないので、よい機会でした。フルートの特殊な奏法を知れたし、パワフルな音を聴けて、とても楽しい時間でした！驚きで鳥肌がとまりませんでした。講習会もとても充実していて、来年もぜひお願いします。鹿児島の子供たちにも機会をくださり、ありがとうございます。

【アンケート分析】各年代がまんべんなく来場していた。今後の演奏会への期待度が 94.9%と非常に高く、再演を求める声が多量に寄せられた。

3 普及啓発事業「ミニ・コンサート」、「みやまさてらいとコンサート」

(1) ミニ・コンサート

【開催後のアンケートより（総回答数 262）】

・ ただ音楽を聴くんじゃなくて、その楽器の歴史についても知れたのでよかったです。ピアノの歴史などについて初めて知ることが多く、とても勉強になりました。音がとても響いていて、迫力がありました。説明もあり、分かりやすかったです。すごく感動しました。感動しすぎて涙が出ました。また聴きに行きたいです。（自由記述 149 のうち高評価 145）

【アンケート分析】来場者の 69%が初めての来場であり、コロナ感染症の影響より県内の小中学校の宿泊を伴うプログラムが減少していることと比例してミニ・コンサートの開催も減少している。可能な限り参加団体の希望に合わせて日程・時間調整を行い、柔軟な対応を続けているが、すぐには結果には表れていない。今後も本物の芸術に触れる機会を確保するべく、関係各所に働きかけていきたい。ミニ・コンサートに出演する協力演奏家も時代のニーズや季節感、来場者の発達段階に応じた選曲等で技術向上にも努めるとともに、アンサンブルも積極的に行い、演奏家同士の交流も深まっている。

(2) みやまさてらいとコンサート

【開催後の代表者感想より】

・ 素晴らしい演奏家と素晴らしい音楽を聴くことができた。この土地で演奏会が聴けるのは貴重な体験だった。

【開催後分析】早めに演奏者、プログラムの情報を提供することができ、運営や集客対応は現地の共催者と連携し、行うことができた。開催地の希望に応え、地元出身の音楽家や縁のある音楽家を選出したり、地元団体との共演を企画したりすることで地域の方々に興味・関心をもっていただくことができた。

上記のことから、地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと認められる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当ホールは、県内の関係自治体、教育機関、音楽団体関係者及び地域の各種団体等との緊密な連携のもとに各種事業を実施してきており、事業の企画や施設管理・運営に精通している。

【事業運営】

第9回目を迎えた「みやま音楽塾」は、県内の教育機関や音楽団体・関係者等との緊密な連携の下に企画・実施しており、県派遣の芸術文化専門員（教員）による専門知識や人脈を生かした魅力的な事業を効果的、効率的に実施してきている。単に前回は踏襲するだけでなく、これまでの取組を検証し、改善を加えて回数を重ねてきた経緯がある。また、開館当初より始まった歴史ある「ミニ・コンサート」は、時代のニーズにより形を変化させ、今も進化を続けている。さらに、「みやまさてらいとコンサート」は、どんな場所にでも地域にでも等しく優れた文化芸術を届けたいという理念の下、10年以上継続している事業である。職員の配置等において担当が変わっても、これまで構築してきた組織活動を効果的に活用し、事業運営を続けていくことができる。

【経営戦略】

各事業の開催後のアンケートを基に、受講生、観客のニーズに柔軟に対応できるよう課内会議を行い、体制を整えている。「みやま音楽塾」に関しては、音楽教育及び音楽活動などの担当業務に精通している教員でもある職員が、単発の講習会でなく半年間の長期アカデミーという形で行うことで、他ホールとの差別化を図り、経営戦略としている。また、「ミニ・コンサート」においても、これまでの事業の蓄積により、協力演奏家の出演体制を構築するなど、職員が入れ替わっても全員でホール運営に当たることができる組織体制となっている。

【人事戦略】

当ホールの職員配置は、職員派遣制度を前提として、財団職員、県派遣職員、霧島市派遣職員及び臨時職員という構成を継続している。あらゆる分野から職員が集まることで、事業を多方面から検証でき、改善方法の提案も多岐にわたり、よい化学変化をもたらしている。職員配置については、県職員は3～5年、霧島市派遣職員は2～3年の在任を基準としている。

また、年度当初において、全国公立文化施設協会等が主催する各種研修会への参加計画を立て、職員の職務内容、経験年数に応じ最適な研修を受講できるようにしている。

【ネットワークの構築】

当ホールは九州類似ホール連絡会に在籍し、他館との意見交換や情報共有を定期的に行っている。また、当ホールの自主事業の計画決定や施設の利用促進を図るに当たり、県内の音楽関係団体や文化団体・報道機関等のトップで構成される県民有識者による「懇話会」も設置している。さらに、霧島地域の各機関・団体等と連携を緊密に行う「地域連絡会」も設置している。

これらの戦略等において、職員人事評価シートの作成や面談の実施、課内会議の実施、事業計画書及び事業報告書の作成、観客アンケートの分析、財団理事会、評議委員会等による事業検証や各種連絡会での意見交換を基に改善を図っている。つまり、単にこれまでの事業内容や企画を踏襲することなく、様々な人・機関・組織・行政と連携し、Check, Action を検証しながら次のPlan, Doへと生かしている。

上記のことから、事業を通じて組織活動が持続的に発展すると認められる。